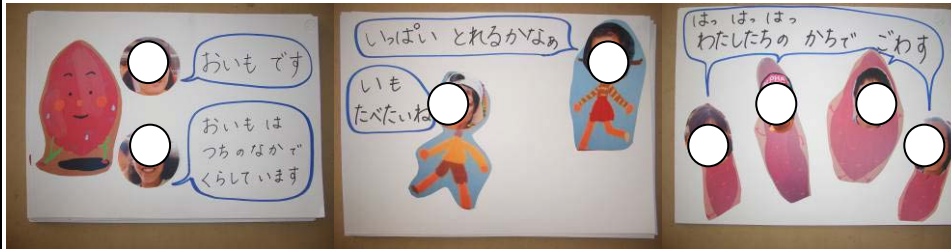
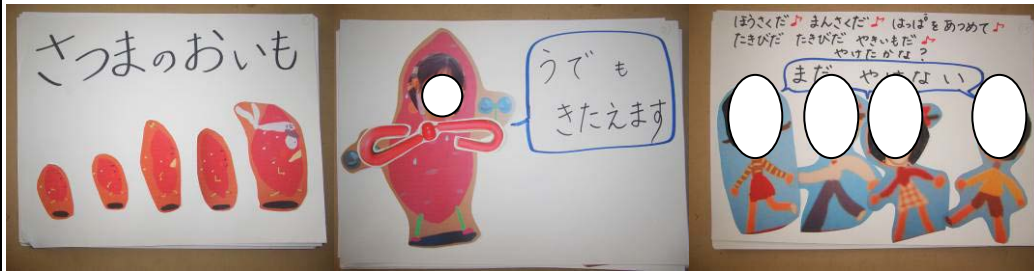


教材教具名 紙芝居風の台本

教科 (国語)



教材教具の概略 (ねらいと使い方) ※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

- 1 ねらい 出番、セリフなどを視覚的に支援することにより、自分の役割を理解し、期待感をもって活動する。
- 2 発達段階 グループのほとんどの生徒がひらがなを読むことができ、物語を大まかに理解することができる。
- 3 使い方
 - ① おいもチームとこどもチームに分かれて座る。
 - ② 紙芝居 (台本) をみんなの見える位置に置く。
 - ③ 自分の出番になったら立って読む。

この紙芝居を出すまでに、物語を理解するための学習や興味を持たすためにお芋の踊りなどを踊ってきたりした。また、物語を部分的に取り上げ、演技等の学習をしてきた。自分の出番やチーム (おいもとこども) を意識させるために、チームに分かれて座ったり、自分の出番は立って言うように取り組んだ。繰り返しの学習の中で、自分の出番以外のところにも興味を示し、一緒に動きをつけたり、言葉を出したりする生徒が増えてきた。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等 (次に利用する方のために)

昨年度同じ形式で「3匹のこぶた」の劇を行っている。授業の流れや、紙芝居 (台本) の使い方などは、よく理解しており、読むことは簡単ではあるが、文字を追って読んでしまうので、単調な読み方になってしまう。慣れてきたころに、セリフのみかくすと写真で自分の出番もわかり、セリフは読まないの自分なりの言葉で言おうとする生徒も増えてきた。